

令和 8 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

校訓「つくろう あすへの わ」（和・・・心と体の調和、輪・・・仲間とのつながり、我・・・自分らしさ、の三つの「わ」）を大切にしながら、「未来をいきる主人公を育てる」ことを学校教育目標とする。
多様に変化する社会に対応し、自分の可能性を最大限に発揮できる児童生徒を育てるとともに、知的障がいのある児童生徒のための支援教育を発信する。
1 「一人ひとりの心と体を大切にし、将来に向けたステップを作る力をはぐくむ学校」
2 「関係機関と連携し、地域のなかで役割を担う学校」
3 「自ら前向きに変わっていかうとする力を持つ学校」

2 中期的目標

1 児童生徒・教職員一人ひとりの心と体を大切に作る学校づくり
（1）危機管理体制の充実（防犯・防災教育の計画的な指導、保護者・地域との連携）
（2）生徒の健康維持・管理（学校保健の充実）
（3）生徒の人権を守り、教職員が互いに理解し協力しあえる関係の構築（人権研修年間 3 回・伝達研修の充実、個人情報 の適正管理）
（4）教職員が力を発揮しやすく、業務の効率化が図れる学校運営（大阪府立学校の教育職員に関する業務管理・健康確保措置実施計画に基づき働き方改革を推進する）
2 児童生徒の将来に向けた力をはぐくむ学校づくり
（1）教育課程・シラバスの充実、個別の教育支援計画・個別の指導計画の活用による指導支援の充実
（2）生徒の学びが深まる授業力の向上
（3）個に応じた自立活動の充実、ココカラ学習の充実、SST 学習の充実
（4）キャリア教育を全校一貫として実施
（5）情報活用能力の育成
（6）社会生活・職業生活に必要な力の習得をめざした職業教育の充実
（7）農福連携による校内でのぶどう栽培の実施、及び地域の農家でのぶどう栽培実習の実施
（8）一人ひとりに応じたよりよい進路の実現 ＊不登校傾向の生徒の進路決定率を向上させる
（9）進路情報の充実
3 関係機関と連携し、地域の中で役割を担う学校づくり
（1）学校情報発信力の向上
（2）地域における支援教育のリーダーとしての活動の充実
（3）地域リソースを活用した教育活動による、生徒の社会参加・社会貢献意識の向上
（4）学校間交流の充実
4 自ら前向きに変わっていかうとする力を持つ学校づくり
（1）ICT 機器の効果的活用と校務支援システムの効率的活用
（2）学校運営を推進していけるミドルリーダーの育成
（3）経験年数が少ない教員の指導力の育成、中堅層・ベテラン層のマネジメント力の向上

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和 年 月実施分〕	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標〔R 7 年度値〕 保:学校教育自己診断保護者肯定率の略 高保:学校教育自己診断高等部保護者肯定率の略 教:学校教育自己診断教職員肯定率の略 高教:学校教育自己診断高等部教員肯定率の略	自己評価
1 生徒・教職員一人ひとりの心	（1） 危機管理体制の充実 （2） 生徒の健康維持・管理 （3） 生徒の人権を守り、教職員が互いに理解し協力しあえる関係の構築	（1） 発災を想定した防災計画をまとめ、組織的な学校安全体制を整備する。保護者と連携し実践的な訓練を実施。 （2） 生徒が自ら心身の健康管理に取り組めるために、「学校保健計画」に基づき健康教育に取り組む。 （3） ア. 人権意識向上のため悉皆研修を実施。外部講師、次世代ミドルリーダー層の教員による伝達研修により効果を	（1） 学校安全委員会を中心に関係機関と協働し、防犯及び防災計画、BCP の改訂を進める。 （2） 学校における怪我を 20%削減する〔R 7 年度基準 236 件〕（12 月現在） （3） ア. 人権研修 5 回実施 「人権尊重の姿勢に基づいた生徒指導が行われている」	

府立西浦支援学校（高等部）

と 体 を 大 切 に す る 学 校 づ く り	（４） 教職員が力を発揮しやすく、業務の効率化が図れる学校運営（実施計画に基づく働き方改革）	高める。 イ．人権委員会を中心にいじめに関する未然防止に努め、生起時の初動体制を整える。 ウ．個人情報の適正な管理に努め、個人情報の流出を防止する。 （４） ア．会議等をチャットツールの活用により、年間 12 ターム（１ターム４週）から、10 ターム（１ターム６週）にし、会議以外の業務時間を確保する。 イ．労働安全衛生委員を中心に週１回の定時退庁（水曜日）を促進する。ウ．	高教：95%以上〔93%〕 イ．自己診断（保護者）「学校は、いじめについて子どもが困っていることがあれば真剣に対応してくれる」 保：75%以上〔65%〕 ウ．個人情報流出０件 （４） ア．時間外労働の削減 80 時間超え 0 人〔8 人〕（１月現在） 45 時間越え 100 人〔138 人〕（１月現在） 年間 720 時間越え 0 人〔0 人〕 イ．定時退庁日の 18 時 15 分全員退勤達成日を年 90%以上とする。	
2 生 徒 の 将 来 に 向 け た 力 を は ぐ く む 学 校 づ く り	（１） 教育課程・シラバスの充実、個別の教育支援計画・個別の指導計画の活用による指導支援の充実 （２） 生徒の学びが深まる授業力の向上 （３） 個に応じた自立活動の充実、ココカラ学習の充実、SST 学習の充実 （４） キャリア教育を全校一貫として実施 （５） 情報活用能力の育成 （６） 社会生活・職業生活に必要な力の習得をめざした職業教育の充実 （７） 農福連携による校内でのぶどう栽培の実施、及び地域の農家でのぶどう栽培実習の実施	（１） 授業力、自立活動の指導力の向上、各計画の作成及び活用実践力の向上、評価の記載内容の充実をめざす。 （２） ア．公開授業及び研究協議の充実、学部を越えた授業見学・意見交換等による授業力の向上をめざす イ．研修年間計画を見える化し、課題やニーズに応じた研修を実施する （３） ア．教員が生徒の障がい理解を深められるようアセスメントに関する学びの機会をつくり、指導内容や指導方法・教科学習の充実を図る。 イ．ココカラ学習を教科横断的に実施 多職種連携によるココカラ学習の充実 ウ．SST 学習を取り入れた自立活動の計画と実践の充実 （４） マトリクスを基にキャリア教育を進め、「ぶどう栽培」を軸とした小中高の系統立てた取組みを計画し、教育課程に位置付ける。 （５） ア．生成 AI や SNS 等の視点を取り入れた授業を各教科において実施。 保護者への情報モラルについての啓発。 イ．教員の活用能力と情報モラルの理解を深められるよう、取組みの共有を進める。 （６） 授業を通して獲得をめざす力を明確に示し、生徒が主体的に授業に取り組めるようにする （７） 校内でのぶどう栽培の経験を増やし、適正に応じ、支援度の高い生徒も積極的に校外でのぶどう栽培実習に取り組めるようにする。	（１） 自己診断（教員）「マニュアルに基づき、作成、評価も含めて適正に運用されている」 高教：個別の教育支援計画 92%〔90%〕 高教：個別の指導計画 90%〔88%〕 （２） ア．公開授業及び研究授業を年２回継続実施 自己診断（教員）「シラバス、指導案、授業記録を蓄積し常に授業改善に取り組んでいる」教：85%〔82%〕 イ．自己診断（教員）「校内研修組織が確立し、研修が計画的に実施されている」 教：85%〔81%〕 （３） ア．自己診断（保護者）「学校は子どもの障がいについてよく理解している」 保：否定的回答 5%〔8%〕 イ．ココカラウィーク年３回実施を継続〔３回〕 保護者向け学習会の継続及び、教員向けの研修を実施 教：１回〔０回〕 ウ．指導略案や教材等をアーカイブ化する。 （４） 自己診断（教員）「小中高一貫性のあるキャリア教育を行っている」教：70%〔66%〕 （５） ア．生徒・保護者向け情報モラルチェックシートを引き続き実施 年３回〔２回〕 イ．授業や校務での取組みをチャットツールで共有 年 30 回〔新規〕 （６） 自己診断（教員）「生活・作業学習、職業などキャリア発達を促す授業が充実している」 高教：95%〔92%〕 （７） 農業１～３班、CF コースで実施 農業１班 ４回〔１回〕 農業２班 14 回〔14 回〕※継続	

府立西浦支援学校（高等部）

	（８） 一人ひとりに応じたよりよい進路の実現 ＊不登校傾向の生徒の進路決定率を向上させる （９） 進路情報の充実	（８） 教員の進路先見学、進路学習会、進路相談会等を実施し、生徒の進路決定に向けた教員の支援力を高める。 （９） 教員の進路先見学、進路学習会、進路相談会等を実施し、生徒の進路決定に向けた教員の支援力を高める。 生徒が進路先について学ぶ機会を、校内実習と関連付けた時期に実施し、実習をより実践的なものにする。 小・中・高保護者向けの進路説明会の継続、説明会の内容をアーカイブにする。	（８） 生徒の進路未定率 10％以下を継続する。 （R6：16％、R7：5％ ※1月現在） （９） 自己診断（高保）「学校は将来の進路や職業などについて適切な指導を行っている。」 高保：93％〔88％〕	
3 関係機関と連携し、地域の中で役割を担う学校づくり	（１） 学校情報発信力の向上 （２） 地域における支援教育のリーダーとしての活動の充実 （３） 地域リソースを活用した教育活動による生徒の社会参加、社会貢献意識の向上 （４） 学校間交流の充実	（１） 新規採用される学校連絡網システムへのスムーズな移行。情報発信はホームページなどデジタル媒体で QR コードを活用し充実 （２） 地域の小中学校等への訪問又は来校相談を実施。動画配信サービス等での情報発信力の強化 （３） 学校周辺の施設を積極的に活用した教育活動の実施 （４） 学校間交流（松原高校、大塚高校、懐風館高校）を充実させ、互いに理解を深め、尊重し協力する活動を実施する	（１） 自己診断（保護者）「HP 等の活用も含め、学校の様子を伝える努力をしている」 保：92％〔89％〕 （２） 訪問又は来校相談等を実施し、独自アンケートを実施。 肯定評価：90％〔新規〕 情報発信：20 件〔15 件〕 （３） 近隣大学や施設と連携した教育活動を各学部 2 回以上継続〔2 回〕 自己診断（保護者）「子どもが社会の一員であることや役割を意識できる教育活動を行っている」 高保：85％〔82％〕 （４） 学校間交流を各学年 2 回以上実施。両校における交流のねらいや位置づけを共有し、ブラッシュアップさせる。 「学校は、子どもが他の学校の子どもたちと交流する機会を設けている」 高保：65％〔58％〕	
4 自ら前向きに変わっていきこうとする力を持つ学校づくり	（１） ICT 機器の効果的活用と校務支援システムの効率的活用 （２）（３） 経験年数が少ない教員の指導力の育成、中堅層・ベテラン層のマネージメント力の向上	（１） チャットツール内で活用事例を共有。より速く正確に業務を進める活用方法のアーカイブ化 （２）（３） ア．研究授業の参観及びメンター会議や初任者の振り返り会の充実 他学部交流研修の実施 イ．職層に応じた人材育成	（１） 「ICT 機器を効果的に活用している」 教：80％〔76％〕 （２）（３） ア．自己診断（教員）「メンター制など人材育成に関する校内支援体制ができている」 教：83％〔78％〕 イ．自己診断（教員）「教職員の適性・能力に応じた校内人事が行われ、よく機能している」教：70％〔66％〕	